

令和 4 年度の取組について

令和 4 年 3 月 25 日
検討会事務局

商工観光労働部 パーパス・行動指針

パーパス

ものづくり、人づくり、未来づくり。

～ 大分県は、「最強のものづくり県」であり続けるとともに成長生み出す「人づくり」を進め、「未来をつくる」。～

- ◆「ものづくり」は我々の原点であり、デジタル社会が進展する中においても忘れてはいけない強み。大分県は、製鉄や石油化学、自動車、半導体など、多様かつ重層的な産業構造を形成しており、その産業バランスは、日本の縮図となっている。企業会という強固なつながりもある。今後も変革を続け最強であり続ける。
- ◆加えて、観光・サービス・ベンチャーなどあらゆる企業・産業を支えているのは設備でもなく先端技術でもなく「人」。また、オープンかつ多様な人とのつながりが大分県の成長につながる。成長生み出す「人づくり」を進める。
- ◆そして我々は「未来をつくる」。在りたい姿を持ち、世界を含め多様な人々と未来を共創する。

行動指針

「現場主義」

常に現場に出向き 現場の声を聴き 迅速な行動につなげます

「共 感」

課題解決に向け 第一に そこで暮らす人々や事業者を理解する努力から始めます

「共 創」

多様な立場の方々と 新しい価値を 共に創り上げていきます

※令和4年4月から施行

■ 商工観光労働部では、部の「パーパス(※)」を策定しました。

策定にあたり、商工観光労働部の社会的存在意義や目指すべき姿を職員があらためて議論し、言葉に表現しました。

■ パーパスに込められた思い

大分県商工業の原点であり、強みでもある「ものづくり」をしっかり守り継ぐとともに、産業の成長を支える多様な「ひと」を育て、「ひと」をつなぎ、そして「未来づくり」を担っている誇りを持つという思いが込められています。

我々商工観光労働部の職員は、
パーパスと行動指針を常に念頭に置き、業務遂行にあたります。

(※)パーパスとは、組織が何のために存在するのか、すなわち存在意義のこと。

**次世代モビリティサービス事業においても、
目指すべき方向性、ビジョン等、
判断軸・価値観を共有し、皆様と共に取組んでいきたい**

- 初年度(令和元年度)の取りまとめにおいて、**3つの目指すべき方向性**を設定
- 今後も、移動に限らない**幅広い視点**で取組む

目指すべき方向性

① 持続的な次世代モビリティサービス

・・・関係者が互いにメリットを享受できる（利用者、交通事業者、サービス提供者、行政等）

② 実証を通じた実例の提供

・・・サービスの導入を促す、移動データの取得・活用につなげる

③ 新たな価値の創出

・・・移動課題の解決に留まらない
移動に付加価値を与え、地域活性化等につなげる

1. これまでの3年間の取組

- 検討会を立ち上げ、各分野の代表と県内の移動課題について意見交換
- 幅広い課題の解決に向けた実証実験を実施

高齢者の
移動手段

高齢者の
見守り

施設送迎
効率化

事業者の
デジタル化

ラスト
ワンマイル

観光地の
渋滞緩和

デマンドバス配車へのAI活用



- ・ 自動で配車計画
- ・ 運転に集中できる
- ・ 運行実績データ化

ワンボタンでのタクシー配車



- ・ 手軽にタクシーを呼べる
- ・ 駆けつけてくれる安心感
- ・ 潜在需要の掘り起こし

通所送迎の効率化



- ・ 送迎計画を自動作成
- ・ 急な変更にも対応
- ・ 利用者に着時間を通知

バス事業者のデジタル化支援



- ・ 独自アプリ不要
- ・ デジタルチケット化促進
- ・ 社員のDX化意識醸成

電動キックボードシェアリング



- ・ 気軽に乗れる
- ・ 寄り道ができる
- ・ 時間に捉われない

観光地でのパーク&ライド



- ・ 移動自体が観光コンテンツに
- ・ 郊外の魅力を発見できた
- ・ 混雑なく駐車できる

取組の結果、

- ・ 移動課題の解決に向けた可能性が見えた
- ・ サービスの維持、持続性については、更なる検討が必要

2. 令和3年度 県内の取組（1）

● 各自治体、民間事業者においても、次世代モビリティサービスに係る取組が進んでいる

大分市

グリーンスローモビリティ
初の公道での遠隔型自動運行

- ・公道1.4km、8日間10便/日
- ・バス運転手不足への対応
- ・高齢者や過疎地域の移動手段

由布市

MaaSアプリ
「my route」の実証開始

- ・マルチモーダルルート検索
- ・観光特集記事・スポット情報の提供
- ・デジタルチケットの販売 (1dayチケット、城島高原パーク特典)

竹田市

カート型グリーンスローモビリティ
秋の観光への活用

- ・秋の岡城・城下町散策に
- ・通常は入れないエリアへの運行で足腰に不安のある方も岡城へ

別府市

別府観光の新たな足に
ミニ自動車レンタカー

- ・移動自体を楽しむ
- ・別府ラクテンチで貸出(8台)
- ・49cc、1人乗り、普通運転免許が必要

バス事業者

空港リムジンバスチケット
スマホ決済化

- ・LINEアプリを活用
- ・クレジットカード決済後、発行されたQRコードを車載読み取り機にかざす

姫島エコツーリズム推進協議会

多様な観光用
小型モビリティの提供

- ・21年から電動キックボードも貸出
- ・二次交通の充実による地域活性化と低炭素な社会実現を目指す

2. 令和3年度 県内の取組（2）

● 県としても、移動 + α に向けた環境の整備に取り組んでいる（交通政策課）

GTFS-JPデータの整備について

- 県内の乗合バス事業者について、GTFS-JP（標準的なバス情報フォーマット）の整備を開始。令和4年度中に整備完了予定。

**令和4年度中に
整備完了予定**

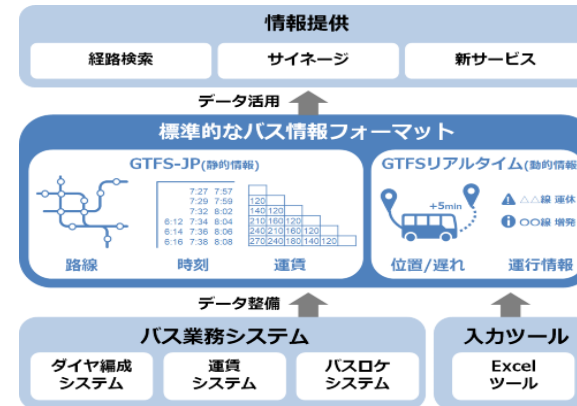
1 大分県の現状

GTFS-JP（静的情報）

路線：大分バス、大分交通、亀の井バス
時刻：大分バス、大分交通、亀の井バス
運賃：対応事業者なし

GTFSリアルタイム（動的情報）

位置/遅れ：大分バス、大分交通、亀の井バス
運行情報：大分バス、大分交通、亀の井バス



出典<標準的なバス情報フォーマットFAQ>

※大野竹田バス、臼津交通、国東観光バス、大交北部バス、玖珠観光バス、日田バスは全てのデータに対応していない。

2 今後の対応について

事業者名	GTFS-JP			GTFSリアルタイム	
	路線	時刻	運賃	位置/遅れ	運行情報
大分バス	○	○	◎	○	○
大分交通	○	○	◎	○	○
亀の井バス	○	○	◎	○	○
大野竹田バス	◎	◎	◎	×	×
臼津交通	◎	◎	◎	×	×
国東観光バス	◎	◎	◎	×	×
大交北部バス	◎	◎	◎	×	×
玖珠観光バス	◎	◎	◎	×	×
日田バス	◎	◎	◎	×	×

Googleマップ等で検索した際、県内全域においてバス路線を活用したルートが提案可能になり、県民及び観光客の利便性向上に繋がる。

◎・・・新規 ○・・・対応済 ×・・・対応予定なし

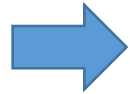
7

3. 令和4年度の事業について

【方針】

- 引続き、幅広く意見をいただきながら事業を進めたい
- 交通事業者、市町村からのご提案をいただき、共に形にしたい
- 日々進歩するモビリティサービスを捉え、実装の可能性を検討したい
- 実証から実装へとフェーズを進めたい

これまで



検討会

実証実験
2件

令和4年度

検討会

実証実験
1件

実装支援
(補助金)
2件

■趣旨：高齢者等交通弱者の移動手段の確保、交通渋滞の緩和、地域公共交通サービス維持等の移動に係る課題に対応し、経済活性化等の新たな価値の創出を図るため、**市町村、及び民間事業者が次世代モビリティサービス事業(※)を実施するのに要する経費について支援する。**

(※)次世代モビリティサービスの定義：

IoT、AI、5G、ビッグデータ等を活用することで生まれる、
デマンド型交通サービス、マルチモーダルサービス、貨客混載サービス、
パーソナルモビリティのシェアリングサービス等のことをいう

■補助対象経費、補助率等：

- ・物品費(設備備品費、消耗品費)、外注費、旅費等
- ・補助率 1 / 2 以内 上限額 100万円